

時代の流れとハイブリッド・ビル

(2月のごあいさつ)

平成25年2月1日(金)

2月1日、すがすがしい晴れ、沖縄の太陽が久しぶりに戻ってきました。

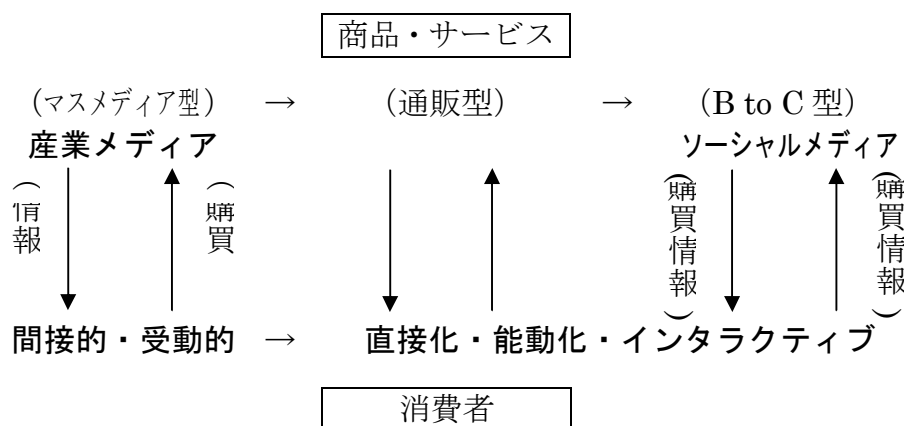
久茂地の交差点は、沖縄の政治・経済の中心である。そこに沖縄タイムスの新社屋が建設された。新聞社の使命と品質は、新鮮で公平で正確なニュースである。久茂地は、県庁、県議会、市役所、警察署、銀行、保険、デパートをはじめ主要企業も密集する所であり、国際通りも近く、県内情報の中心地である。新聞社の立地と経営は、読者の要望に応える情報の集約でなければならない。

電通調査によれば、マスコミ四媒体の広告費は、継続して低下傾向にあり、特に14年前の70%程度にまで低落している。これに比較してインターネット広告費は、4年前に新聞を逆転し、全広告に占めるシェアは約15%と増加を続けている。

近年においてマスコミ四媒体の広告費が減少している原因は、消費における購買情報の伝達の効率性(間接的、受動的)の低下にあるのではないか。即ちマスメディアからソーシャルメディアへの変化(直接的、能動的)であり、可逆性のない流れである。このような傾向(大きな流れ)の中でマスコミ四媒体がその地位を失っていることを認識すべきである。

従来の産業メディア型流通においては、テレビ、新聞、ラジオ、雑誌等のマスメディアによって、間接的に購買情報を提供していた。それが通販型流通となって、直接的に消費者に購買情報を提供するようになった。

そして、ソーシャルメディア型流通においては、パソコンやモバイルによるB to Cによって、一方通行を改めインタラクティブに消費者と相互に購買情報を交換するという流れとなった。即ち、商品情報のソーシャルメディア化である。



タイムスのビルは、ハイブリッド・ビルということができる。新聞社や出版社経営の現状と将来を考え、県庁所在地のまん中に、新聞社事業ビル(ガソリン・ビル)を建設することを再考し、テナントビルの的なニュアンスを加え、ハイブリッド・ビルとしたのは時代の流れを敏感に感じとるジャーナリスト的な発想ではなかろうか。